

事務局報告にかかる議事概要

1 事務局報告の概要

(1) 教職員の多忙化解消に向けた取組みについて

教職員課長が、「多忙化解消アクションプラン」に基づく多忙化解消推進校での取組事例を県内の学校に広げていくために作成したリーフレットについて説明した。

(委員からの主な意見)

- ・ノー残業デー実施の取組事例が掲載されているが、実際に残業しないで帰れているのか。早く帰ることが悪いことのような風潮があると聞いているので、管理職の方に率先して早く帰るようにしてもらいたい。

(教職員課教育主管の補足説明)

- ・学校行事・地域の行事等で実施できない日もあるが、そういった場合は、他の週・月とバランスをとって必ず早く帰る日を設けるよう、管理職がリーダーシップを取って実施していると聞いている。

(委員からの主な意見)

- ・「スリム化できそうな観点」の「行事やその準備」という項目が、小学校と中学校で違うが、どのような理由か。

(教職員課教育主管の補足説明)

- ・小中学校の全職員に勤務時間外における業務内容の中で、スリム化できそうなものは何かという意識を聞いた結果である。中学校に比べて小学校の方が、行事やその準備をもう少しコンパクトにできるのではないかと考えている割合が高いということである。

(委員からの主な意見)

- ・「スリム化できそうな観点」に「諸会議・研修」が上がっているが、必要な会議・研修をしっかりと行い、あとは自主性に任せるのがよいと思う。
- ・小中学校版、県立学校版で同じ取組事例が掲載されているが、それぞれで異なると思う。教員の多忙化が今起きている様々な不祥事に関係している可能性もあるので、今後、改善してもらいたい。

(教育長の補足説明)

- ・個々の教員一人一人に配布するのは今回が初めてである。これまでも各学校あてに学校スリム化・多忙化解消について様々なものを出してきたが、なかなか個々の教員まで行き渡らず、意識改革につながらなかった。
- ・小・中・高・特別支援学校それぞれで勤務時間の調査をしているが、中学校が一番多忙化が激しいと言われている。状況はそれぞれで違うが、「多忙化解消アクションプラン」は小中学校で実施したため、その成果を高校でも参考にしてもらおうということでもとめた。
- ・多忙化解消には何年も取り組んでいるが、なかなか動いていかないのが実態である。より意識してもらおう第一歩として教員一人一人に配布した。今後とも改善していきたいと思っている。

以上